

4.2 路上駐車、荷捌き対策(周辺駐車場の状況調査)

緩速車線空間を「ゆとり空間」として利用した場合の具体的な影響として、バス及びタクシーは緩速車線に停留所及び乗り場を設置できなくなり、荷捌き車両は緩速車線での荷捌きが不可能となる。このような状況が想定される中、バス、タクシー、荷捌きとも混雑の発生や、緩速車線を利用できなくなることに ついて不安視する意見がある。

このような影響に対して、停車帯設置、時間貸し駐車場の利用促進等の解決策が想定される。こうした対策実施により、現況の路上駐車車両 153 台は本線へ停車しなくなり、想定される影響は改善されると考えられる。

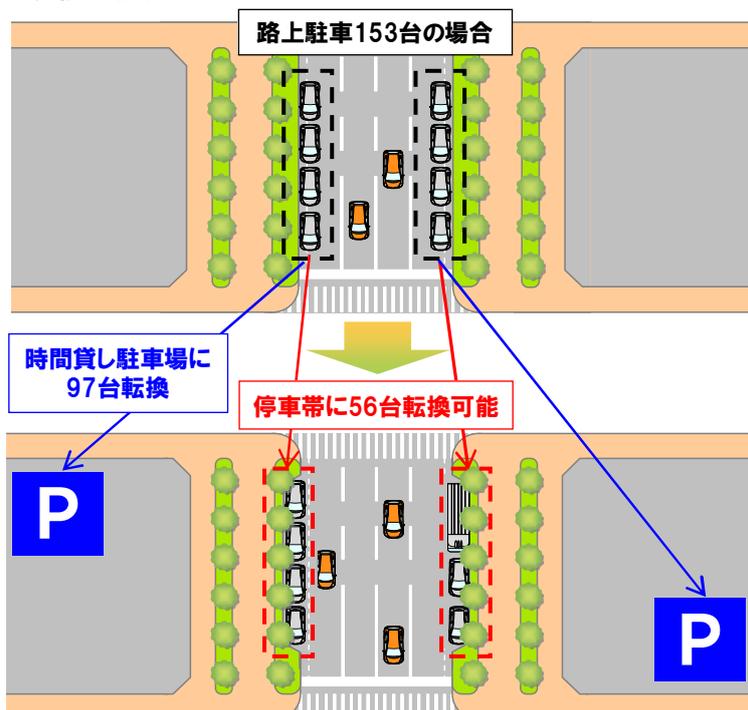
現況と課題



解決策

- バス停留所、タクシー乗り場の確保: 本線横に停車帯を設置
- 荷 捌 き ス ペ ー ス の 確 保: 本線横に停車帯を設置、時間貸し駐車場の利用促進、

本線横の停車帯、御堂筋周辺の時間貸し駐車場の活用により、現況の路上駐車車両153台すべてが転換可能。



<転換条件>

路上駐車した街区に隣接する南北1街区、路上駐車と同じ側の東西2街区、反対側の東西1街区の停車帯、時間貸し駐車場に転換するものとする。

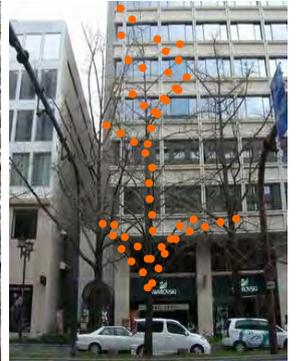


- ※対象区間は淀屋橋～難波交差点とする。
- ※路上駐車台数は、昼間ピーク時の153台を使用。
- ※平成21年度駐車状況調査、平成22年度路上駐車アンケート調査(ともに大阪国道事務所)をもとに転換台数を算定。

4.3 イチョウの保全を考慮した停車帯の検討について

緩速車線空間を利用した場合に植栽帯の一部を停車帯、車道、歩道等へ転換する際に、イチョウの健全な生育に影響がないことを確認する必要があるため、専門家にアドバイスを受けながら、「イチョウ再生実験」を実施し、次のような結果が中間報告されている。

- 実験の対象木
イチョウにとって厳しい条件で実験を実施
- 【日照条件】
西日が強く影響すると考えられる東側植樹帯のイチョウを対象とする
- 【雌雄】
環境圧の影響が大きいと考えられる雌木を対象とする
- 【胸高直径】
中径木が最も多いことからφ300程度のイチョウを対象とする(小径木は根系切断によく耐える。大径木は原則根系切断せずに済ませる構造を考える)



幹直近で掘削

[.....部を剪定]

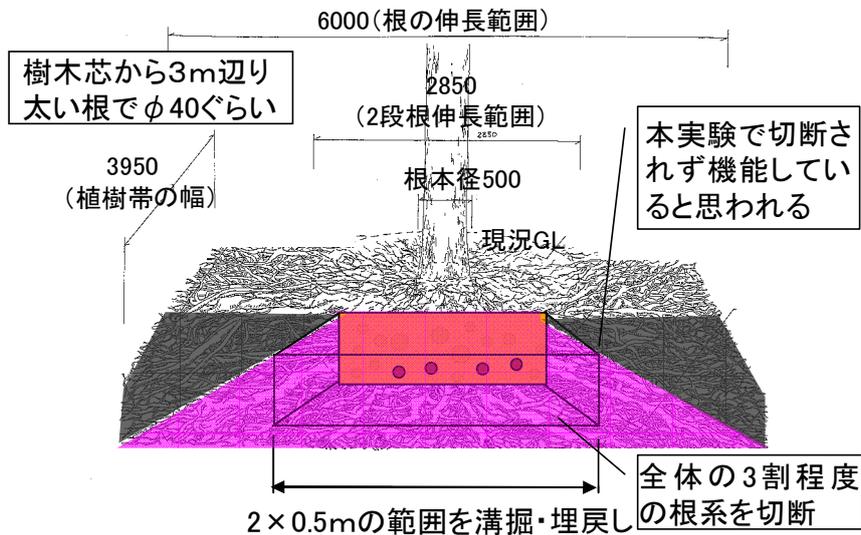


図 根系切断範囲の推定図

表 イチョウの再生実験概要

対象	種別	実験内容	モニタリング内容
御堂筋 (主に樹齢50年以上)	現場のイチョウを対象として根系切断・剪定の影響を確認する再生実験	・根系切断 ・剪定 ・土壌改良	<ul style="list-style-type: none"> ■ 写真撮影 ■ 樹木医による目視観察 ■ 数値計測 <ul style="list-style-type: none"> ・葉の水分量、葉緑素量 ・光合成活性、土壌体積含水率
大阪府立大学園場 (樹齢10年程度の若木)	御堂筋の根系切断・剪定の影響把握を補完するために実施された対照実験(環境が異なる場所で同じ実験内容を実施して比較)	・根系切断 ・剪定	<ul style="list-style-type: none"> ■ 数値計測 <ul style="list-style-type: none"> ・葉の水分量、葉緑素量 ・光合成活性、土壌体積含水率

図 実験内容

